


令和 4年 3月 28日

二宮町長
村田 邦子 様

二宮町政策評価委員会

委員長 大田 博樹 

二宮町総合戦略評価に係る意見書の提出について

このたび、「二宮町総合戦略」の評価に対し、二宮町政策評価委員会としての意見を「施策評価シート」のとおり、とりまとめました。

また、とりまとめに際し、本委員会において、さまざまな意見交換が行われましたので、「二宮町総合戦略評価について（意見）」として、別添のとおり、提出します。

ご一読のうえ、今後の「二宮町総合戦略」の推進に活用くださいますよう、お願い申し上げます。

二宮町総合戦略評価について（意見）

「第2期二宮町総合戦略」に係る取組の令和2年度の進捗について、町の内部評価を踏まえ、二宮町政策評価委員会として評価を行いました。9本の施策については、概ね順調であると評価できるものの、対応が求められる課題や改善を図る必要がある事項も見受けられました。それらの課題解決に向け、本委員会の意見を参考に今後の地方創生の推進に役立てていただければと思います。

各委員から様々な意見が出された中で、総論として、主に3点について、意見を述べさせていただきます。

1点目に、施策1-1に位置付けた、災害時を含めた町民のライフラインの根幹となる公共施設の整備について、特に役場庁舎は災害対策の中心となることから、町民生活を守るためにも、大規模の自然災害の発生に備え、しっかりと危機感を持って臨むことが重要です。これまでの新庁舎整備の進捗が芳しくありませんが、災害対応だけでなく、行政サービスの充実や地域活性化等の視点も説明し、町民の理解を得ながら、再配置を含めた持続可能なまちづくりを前進させるようお願いします。

2点目に、町民の理解をより深め、制度等の利用を促進するためには、町民の立場に立った、分かりやすい情報発信を強化することが重要です。

町の魅力や行政サービスの恩恵を享受するためには、幅広い年齢層がいつでも、誰でも簡単にほしい情報を入手できる仕組みが重要であり、広報紙やホームページはもちろんのこと、様々な広報媒体による情報発信を充実させる必要があります。また、情報の受け手となる町民が、様々な情報を前向きに受け取るためには、まず、その情報のメリットを実感していただく必要があります。そのためには、実際の利用者の声や活動の内容といった具体的な事例を情報提供することで、町民がメリットを実感し、実際に利用したいというモチベーションに繋げることができると考えます。

3点目に、どのような町にしたいのかという目標に見合ったKPIの設定が必要です。

一部のKPIは、施策の方向性との関連性が分かりづらいものになっています。施策の課題解決のためには、現状と問題点をしっかりと把握し、原因を特定したうえで、それらにしっかりと対応し、かつ、町民にとって分かりやすいKPIを設定する必要があります。また、課題解決に向けては、施策に関連したモノや仕組みに着眼しがちになりますが、「視点を変える」こと、また「広く物事を捉える」ことで、課題をま

とめて解決できる可能性があります。枠に囚われない発想や視点の転換で、解決策の選択肢を広げるような展開も期待しています。

最後に、本委員会の全体の議論が、P D C Aサイクルとして次の計画策定に活用されること、また、特に大きな課題として意見を付した町民のライフラインの根幹となる公共施設としての「新庁舎整備」及び、町の情報発信及び二宮ブランド商品の販売の拠点としての「観光協会の駅前への移転」について検討が進展されるようお願いいたします。そして、これまでの地方創生の取り組みを踏まえつつも、新たな時代に柔軟に適応し、引き続き、持続可能なまちとして発展し続けるため、本戦略で掲げる取組を推進されるようお願いいたします。

施策評価シート（令和2年度 実績）

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出		評価者	政策担当部長		
施策内容	今後の人口減少を視野に、ICT技術等の導入による行財政のスリム化と、コンパクトシティを考慮した施設の統廃合による公共施設の継続性をもった適正管理を進めます。 また、未利用町有地を町民主体の運営組織による独創的で柔軟な活用を進めることで、自然の魅力を感じられ、多世代が気軽に集える新たな魅力となる場を創出します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	公共施設再配置事業	良好	有効だった	地域集会施設の一部（6施設）の耐震診断を行った他、今後の方向性を地区と協議した。	
	2	財産管理経費	適当	有効とは言えない	普通財産の管理について、方向性を整理できていない。	
	3	東大果樹園跡地活用事業 ●推進交付金対象事業	適当	有効とは言えない	協議会の活動が3年目に入り、各団体が同じ方向性を持って活動することの難しさが出てきた。	
	4	新庁舎整備事業	良好	有効だった	ワークショップ等により意見を聴取し、今後の方向性を見出すことができた。	
	5	行政改革の推進（まちづくり総合調整事業）	適当	有効だった	職員提案が職場改善、町民サービスに繋がる好事例が出てきている。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	公共施設の総延床面積（㎡）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	68,729.08	68,590.24	68,451.40	68,312.57	D
	実績		68,729.08			
	分析	二宮町公共施設再配置に基づき推進しているものの、短期的に数値に反映することが困難である。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	年少人口（15歳未満）の転入人数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	143	160	170	180	B
	実績		123			
	分析	社会移動は増加傾向にあるものの、全国的に少子化が進行する中、KPIを達成することは難しい。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	東大果樹園跡地を活用したイベントの実施数（回）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	0	10	15	20	D
	実績		2			
	分析	緊急事態宣言が続き、ほとんどイベントを開催することができなかった。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）④	指標名	耐震未確認の地域集会施設数（施設）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	9	3	3	0	A
	実績		3			
	分析	方向性の決まった地域集会施設の耐震診断が終了したので、残された施設について、今後の方向性を地域と協議する。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<p>・地域集会施設を1地区1施設としていくことについて、該当地区への説明が終わり、未耐震施設の耐震診断を行い、今後の方向性の協議を進めることができた。</p> <p>・新庁舎建設について、ワークショップ・シンポジウムを開催し、今後の方向性を整理することができた。</p>			
	課題	<p>①公共施設再配置・町有地有効活用実施計画の進捗を確認し、見直しをする必要がある。</p> <p>②東京大学果樹園跡地の活用について、補助金の最終年度に当たり今後の方向性を整理していく必要がある。</p> <p>③普通財産について、売却等を含め、今後のあり方について共通認識を持つ必要がある。</p>			
	改善点 (課題番号に対応)	<p>①令和4年度の改定に向け、進捗を確認し課題を整理する。</p> <p>②協議会との対話の機会を通じ、令和4年度以降の管理のあり方を協議する。</p> <p>③土地調整委員会による協議の機会を増やしていく。</p>			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<p>● 東京大学果樹園跡地の活用については、一部の人がしか活用していないこと、また情報発信が不足していることが課題である。多くの人の利用につなげるために、どのような施設で、どのように活用できるのかを、実際の利用者の声も含めて積極的に情報発信する必要がある。また、民間のアイデアの活用は有効であるため、幅広い町民から意見を求め、イベントのみならず憩いの空間としての活用などの検討も必要だと考える。</p> <p>● 公共施設については、新庁舎整備、再配置、耐震化等、災害時の町民ライフラインの根幹であり最優先で推進すべき取り組みである。行政サービスの充実、災害対応、地域活性化等のため、町民理解を得ながら今後も着実に取り組みを進める必要がある。また、公共施設の有効活用においては、様々な社会課題を包括的な取り組みで解決するような視点も踏まえ、持続可能な取り組みへと発展させる必要がある。</p> <p>● 施策の方向性とKPIとの関連性が分かりづらい。施策をより推進するためには、KPIと達成に必要な取り組みをしっかりと分析する必要がある。</p>			

施策評価シート（令和2年度 実績）

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域で支えあう体制の構築		評価者	健康福祉部長		
施策内容	人口減少・少子高齢化の進展により、地域本来の支えあい機能が薄れる中、社会的弱者となりうる高齢者や障がい者が健やかに地域で自立した生活を送れるよう、多世代がかかわることで、地域で支えあう体制を構築します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	地域介護予防活動支援事業	適当	有効とは言えない	コロナにより、地域の通いの場が予定どおり実施できなかった。	
	2	生活支援体制整備事業	適当	有効とは言えない	コロナにより、協議体の話し合いが予定どおり実施できなかった。	
	3	認知症総合支援事業	適当	有効だった	コロナで縮小したが、認知症サポーター養成講座を実施した。	
	4	在宅障がい者援護事業	良好	有効とは言えない	コロナにより、手話講習会を一部しか実施できなかった。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	地域の通いの場の参加者（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	13,617 (7,000) ※（ ）はコロナ想定	3,500	5,000	7,500	C
	実績		2,253			
	分析	コロナにより地域の通いの場の中止が相次ぎ、計画値を大幅に下回っている。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	65歳以上の要介護認定者の割合				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	17.6	16.0	16.1	16.7	B
	実績		16.7			
	分析	計画値を上回ったが、基準値（県の値）よりは低い状況を維持している。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	認知症サポーター養成講座受講者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	109	30	200	200	A
	実績		35			
	分析	計画値を達成しており、次年度以降の計画値増加への取り組みを進める。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）④	指標名	手話通訳者養成講習会の参加者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	22(10) ※（ ）はコロナ想定	16	18	20	—
	実績		コロナに伴い中止			
	分析	コロナにより手話通訳者養成講習会を一部しか実施できなかったため実績値がない。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・コロナ禍において地域の通いの場や協議体による話し合いが中止される中、地域の方々を通じ対象者に健康増進のチラシを配布するなど、感染対策に留意しながら地域と連携し可能な活動に取り組んだ。			
	課題	①コロナにより人々が集う従来の事業実施が困難となった。 ②高齢化の進展に伴い認知症対策が重要となっている。			
	改善点 (課題番号に対応)	①感染症まん延下における安否確認や健康維持の手法を検討する。 ②認知症予防を推進するとともに、認知症への理解を促進するよう事業展開を図る。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の通いの場等の高齢者施策については、参加しやすい環境を整えることが重要である。坂や階段といった会場の構造上の問題の解決のみならず、参加の動機づけなども工夫する必要がある。また、年齢問わず多世代間の交流は大切になるため、町の施設を活用した交流イベント等も有効であると考えられる。 ●新型コロナ禍で外出が困難な状況も考えられるため、デジタルデバイドの解消を図りつつ、地域でのオンラインの活用を促進する取り組みについても検討する必要がある。 			

施策評価シート（令和2年度 実績）

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域コミュニティの醸成支援		評価者	政策担当部長		
施策内容	人口減少・少子高齢化の進展に伴い、地域組織の機能縮小が危惧される中、地域の魅力の創出や地域事業の見直し、地域組織の再編検討などにより、自主的な地域組織の強化を支援します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	地域再生事業	適当	有効だった	コロナ禍でありイベントの開催は難しかったが、今後の方向性を話し合うことができた。	
	2	町民活動推進事業	適当	有効だった	様々な新しい団体から補助金申請があった。	
	3	防災訓練・自主防災組織育成事業	適当	有効だった	コロナ禍においても、最低限の自主防災組織の活動ができた。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	住み続けたいと思う一色小学校区内住民の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	79.6	82.6	84.6	86.0	B
	実績		80.0			
	分析	一色小学校区地域再生協議会4年間の活動を通じ、人と人との繋がりが広がっている。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	地域活動に参加している人の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	26.5	27.0	27.5	28.0	A
	実績		29.5			
	分析	町民活動推進補助金について、積極的な活用提案がある。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	消防団員の充足率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	97.4	98.7	100.0	100.0	A
	実績		98.7			
	分析	消防団員の定員充足率については、引き続き100%を目指す。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> 一色小学校区地域再生協議会については、4年間の活動を総括し、令和4年度以降の自主運営について、方向性の協議が始まった。 町民活動推進補助金は、積極的な活用が進んでいる。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①令和3年度が交付金の期限となるため、自主財源の確保を確保すること、今後の活動の方向性の整理が必要である。 ②町民活動推進補助金の活用団体に偏りがみられる。 				
	改善点 <small>（課題番号に対応）</small>	<ul style="list-style-type: none"> ①令和4年度以降の活動の方向性の整理や、財源の確保策について、町としても積極的に関与しアドバイスをしていく。 ②補助金制度を広く周知するとともに、交付に当たっては、町民活動推進委員会での確かな審査を行う。 				
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった	
	<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった		

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<p>● 町民活動推進補助金については、HPや広報などで補助金の活用を積極的に情報発信するとともに、手続きに係るハードルの解消や意欲的な活用を促すべく、申請者視点に立った丁寧な説明を行うなど、より一層の活性化を図る必要がある。また、多様な団体・活動が補助金を活用できるよう配慮しつつ、地域の課題解決につながる活動を支援できるよう運用を工夫する必要がある。</p> <p>● 地域再生事業については、取り組みとKPIの相関関係が見えづらい。関連するデータの収集と詳細な分析を行い、有効な施策を講じる必要がある。また、一色小学校区の取り組みを情報発信し、町内全域でこうした取り組みを促進していくことが重要である。</p>			

施策評価シート（令和2年度 実績）

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる
------	----------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	二宮らしい魅力の創出と発信		評価者	政策担当部長		
施策内容	海や山といった豊かな自然環境や充実した交通環境など、町の資源を生かした多彩な生き方を選択できる魅力あるライフスタイルを「にのみやLife」として確立し、幅広い機会を活用して町内外に積極的に発信することで、関係人口や定住人口を増やします。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	にのみやLifeプロモーション事業	適当	有効だった	コロナ禍で始めたオンライン相談が十分に機能している。	
	2	文化振興事業	適当	有効とは言えない	コロナ禍でイベントの開催ができなかった。	
	3	観光振興対策経費	適当	有効だった	コロナ禍ではあったが、菜の花の時期には観光客でにぎわった。	
	4	生涯学習センター管理運営事業	適当	有効だった	適切な維持管理ができた。	
	5	図書館運営事業	適当	有効だった	巣ごもり需要に応えられるよう、貸し出し方法を工夫した。	
	6	公園等維持管理運営経費	適当	有効だった	適切な維持管理ができた。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	町ホームページの「にのみやLife」の閲覧数（回）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	36,323	39,800	43,300	47,000	B
	実績		36,937			
	分析	ホームページの閲覧数は伸びていないが、オンライン移住相談の申し込みは堅調である。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	ラディアンの稼働率（%）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	50.2	30.0	40.0	50.0	B
	実績		29.3			
	分析	コロナ禍で閉館が多く稼働率は向上しなかった。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	町観光入込客数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	550,860	400,000	560,600	566,000	A
	実績		498,907			
	分析	コロナ禍でも観光客の入込数の落ち込みは最小限にとどまった。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・コロナ禍で始めたオンライン移住相談だが、対面と同等以上に有効に機能することがわかり、月1回の定例開催とし、予約も堅調になっている。			
	課題	①コロナ禍で様々なイベントの開催が制限される中、オンライン等の情報発信で賑わいを創出することは難しい。			
	改善点 (課題番号に対応)	①オンライン活用に向き・不向きがある中、様々な状況を想定した上で、効果的な事業執行スタイルを研究する。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<p>●にのみやLifeプロモーション事業については、コロナ禍で移住への関心が高まる中、オンライン相談やWebでの情報発信が功を奏しているため、今後も継続する必要がある。また、町の魅力として、「楽しそう、生き生きと感じられる」ことが重要であるため、移住された方の実感、感想を生かすとともに、「二宮の魅力」を検討するようなワークショップなど、幅広く意見を聴取する手法の検討も必要である。さらに、複数の施策を融合させた魅力を、発信するだけでなく、取り組みも関連させるなど、相乗効果で魅力を増進させる柔軟な工夫も考えらえる。今後も魅力に関する議論を続け、それらの提案の実現のため、補助金を有効に活用する仕組みなどを検討する必要がある。</p> <p>●文化振興事業については、町外の利用も多いラディアンを町の魅力として活用するとともに、町内の文化芸術資源を掘り起こし、町民とともに町外に発信していくことで、町のイメージアップや移住促進にもつなげることが重要である。</p> <p>●吾妻山公園については、コロナ禍でも町外からの観光客で賑わっているため、今後も幅広い世代が楽しめる施設等の充実を図るとともに、観光を起点にして、二宮ブランドやにのみやLifeを知ってもらうきっかけに結び付けられるように、ガイドマップ等の工夫が必要だと考えられる。</p>			

施策評価シート（令和2年度 実績）

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる
------	----------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	特色ある教育活動の推進	評価者	教育部長
----	-------------	-----	------

施策内容	二宮町で進めている小中一貫教育等の特色ある教育活動は、子育て世代の転入も見据えた大きな魅力であるため、さらなる教育内容の充実を図ります。また、教育の質の向上のため、教職員の働き方改革も併せて推進していきます。		
------	--	--	--

主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明
	1	小中一貫教育研究事業（教育研究所経費）	適当	有効だった	研究が進み、児童生徒が主体となった対話的な授業づくりに取り組めた。
2	英語教育推進事業	良好	有効とは言えない	コロナの影響により、英検の受験率が伸びなかった。	
3	ICT教育推進事業	適当	有効だった	主体的で対話的な深い学びのための環境が整った。	
4	コミュニティ・スクール運営促進事業	適当	有効だった	活動の制限はあったが、コロナ禍での学校を支える取り組みが各学校運営協議会で行われた。	
5	地域学校協働活動推進事業	適当	有効だった	地域学校協働活動推進員が中心となりコロナ禍でも工夫した取り組みが行えた。	

重要業績評価指標（KPI）①	指標名	中学3年生の英検3級取得率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	45.8	50.0	50.0	50.0	B
	実績		35.2			
	分析	コロナにより受験率が伸びなかったことが影響していると考え、一定の成果は示されている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				

重要業績評価指標（KPI）②	指標名	将来に夢や目標を持っている児童生徒の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	75.6	76.1	76.6	77.0	—
	実績		コロナに伴い中止			
	分析	コロナによる学校休業のため学力状況調査は実施されず、数値の把握ができていない。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				

重要業績評価指標（KPI）③	指標名	放課後子ども教室の参加率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	15.5	16.0	16.5	17.0	A
	実績		19.5			
	分析	コロナ禍にあったが、実施時期と実施方法の工夫により、多くの児童の参加があった。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	各学校の状況に応じて、学校運営協議会の活動が活発になり、コミュニティ・スクールとして地域と学校が協力した児童生徒への取組みが進んだ。小中一貫教育についても、9年間のカリキュラムが出来上がり、基盤となる学級づくりの研究にも取り掛かるなど、特色ある教育活動に向け取組みが進んだ。
	課題	①小中一貫教育の基盤となる学級づくりの研究を一貫した取組みとして5校全体で深めていくこと。 ②コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会がさらに主体的に活動できるように体制を整えること。また、地域によっては地域学校協働本部も視野に入れ、地域とともにある学校をさらに進めること。

	改善点 (課題番号 に対応)	①すでに5校において取り組んでいるが、計画的に進捗を管理するとともに、小中学校間のつながりを十分意識して取り組む。 ②地域学校協働活動推進員を中心に、地域への理解の促進と担い手を広げることに努める。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ●小中一貫教育は、子育て世代を中心に関心が高く、移住者にとっても好条件となることが期待されるため、学校や保護者など関係者の理解を深め、着実に推進すべきである。一方で、小中一貫の特色が分かりづらいことから、町民にとってわかりやすい具体的な教育効果を示すことが重要である。 ●KPIに「遅行指標」と「先行指標」が混在していることで、施策の進捗が分かりづらいため、小中一貫に対する効果をダイレクトに図ることができるKPIの設定が必要である。 ●英語教育、ICT教育等については、着実に進んでいると評価できる。教育の質の高さは町の魅力となり、住民の満足度向上や移住促進につながるため、引き続き取り組みを進める必要がある。 			

施策評価シート（令和2年度 実績）

基本目標	出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	妊娠から子育てまでの切れ目のない支援	評価者	健康福祉部長			
施策内容	少子高齢化や核家族化の進展に伴い、育児不安を抱える保護者が増える中、安心して子育てを楽しめるよう、気軽に相談できる体制や包括的な子育て支援体制等の環境を整えます。また、発達相談を含め、学齢期までの切れ目のない支援体制を整えます。					
主な事業	予算等事業名	行政評価結果	KPI達成への有効性	説明		
	1 子育て世代包括支援事業	良好	有効だった	コロナにより相談事業等は個別対応した。		
	2 育児発達支援事業	良好	有効だった	コロナにより一時中止したが、その後対策をとり事業を継続した。		
	3 教育相談・教育支援室事業	良好	有効だった	児童生徒が抱える問題や悩みに、きめ細かな対応ができた。		
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	乳幼児全戸訪問事業の訪問率 (%)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	100	100	100	100	C
	実績		51.7			
	分析	コロナにより訪問を控えたが、電話等で代替対応しており、取り組みは進んでいる。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	育児について困ったとき、気軽に相談できる人や場がある保護者の割合 (%)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	93.7	94.7	95.7	96.7	B
	実績		91.8			
	分析	町としても相談体制の確保を図っており、計画値を概ね達成している。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	児童相談員の相談受付回数 (回)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	423	448	473	500	B
	実績		335			
	分析	コロナの影響もあり基準値を下回っているが、相談対応の取り組みは進んでいる。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・コロナ禍において、母子保健事業や児童相談を代替手段等も用いながら子育て世代包括支援センター「にのはぐ」で実施し、切れ目のない支援に取り組んだ。			
	課題	①児童相談や発達相談など、対応が長期に渡るケースが増加している。 ②発達支援など、ニーズが多様化してきている。			
	改善点 (課題番号に対応)	①相談対応職員の育成や、より効果的な相談体制を検討する。 ②関係部署や関係機関との連携を密にし、ニーズに合った支援を進める。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<p>●各相談事業や個別訪問は、にのはぐ（子育て世代包括支援センター）や子育てサロン等が活用されており、とても良い環境が整備されている。新型コロナ禍で対面対応等が難しい状況だが、実施方法を工夫しながら切れ目のない支援を継続する必要がある。また、相談内容が複雑化しているので、町民ニーズをしっかりと分析するとともに、対応する関係者のレベル向上、相談窓口の周知徹底などが必要である。</p> <p>●KPIについては、そもそも達成率が高いものを設定すると、社会情勢の変化に強く左右されることが考えられるため、それらを踏まえた目標値を検討する必要がある。また、ある程度達成しているKPIよりも、本施策の課題解決に向けた取組に必要となるKPIを設定した方が、より効果的に事業を推進できると考える。</p>			

施策評価シート（令和2年度 実績）

基本目標	出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	仕事と子育ての両立支援				評価者	健康福祉部長
施策内容	誰もが希望する生活スタイルに合わせ、子育てができる環境を整えることで、子育てをしながら多様な働き方などが選択できるよう支援します。また、この取り組みにより、性別を問わず、個人の希望に沿って子育てや就業等に関われる意識を向上させます。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	子ども・子育て支援給付経費	適当	有効だった	保育所等で児童の受入を継続して行った。	
	2	子育てサロン及び一時預かり運営事業	良好	有効だった	コロナにより一時休館したが、相談、一時預かりは継続した。	
	3	子育て支援対策事業	適当	有効だった	ファミリーサポートセンターで児童の預かりを継続して行った。	
	4	病後児保育事業	良好	有効だった	病後児保育を継続して行った。	
	5	学童保育所維持管理経費	適当	有効だった	学童保育の受入を継続して行った。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	保育園の待機児童数（4月1日現在）（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	1	0	0	0	A
	実績		0			
	分析	計画値である待機児童「0」を達成しており、取り組みは良好である。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	0～64歳までの人口構成割合（%）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	67.3	68.3	70.3	71.0	B
	実績		65.1			
	分析	人口構成上、仕事と子育ての両立支援施策をもって高齢化率を引き下げることは難しい。				
方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案	ファミサポまかせて会員数			
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	児童数に対する学童保育所利用者の割合（%）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	23.6	24.7	25.8	27.0	B
	実績		23.7			
	分析	受入体制の確保により基準値より上昇しており、取り組みは進んでいる。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案				

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・コロナ禍において、保育所や学童保育など児童の受入を継続して行い、働きながら子育てができる環境を維持した。				
	課題	①保育士、学童保育所支援員、ファミサポまかせて会員等の人材確保が課題となっている。				
	改善点 (課題番号に対応)	①保育士等の多忙化解消や、確保方策を検討する。				
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった	
	<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった		

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<p>●安心して働ける時間を確保するためには、町外に働きに行く人が多いという町の特性を考慮した保育環境を整備する必要がある。入所希望が高まる傾向にある中で、安心してサービスを受けることができるよう、「入所の余裕数」をKPIに設定するなど、受け入れ体制が分かるような工夫が必要である。</p> <p>●KPIについては、相談受付件数だけでは事業の成果を反映するものではないため、例えば相談後の満足度も併せてKPIに設定するなど、施策の進捗や事業の成果が分かるものを設定する必要がある。</p>			

施策評価シート（令和2年度 実績）

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる
------	-----------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域商工業の活性化				評価者	都市部長
施策内容	町内の産業の活性化を図るため、商工会等と連携し、起業及び経営支援を行うとともに、地域資源の活用や地域ブランドの育成により、新たな魅力の創出を促進します。また、キャッシュレス決済やワーキングスペースなど、新しい時代の流れに沿った多様な働き方に対応した環境整備について検討していきます。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	商工業振興対策経費	適当	有効だった	事業継続支援、飲食店応援クーポンなどの補助事業を実施し、事業者を支援した。	
	2	中小企業金融対策事業	適当	有効だった	融資総額の拡充や利子及び信用保証料の補助額の拡充など、事業者支援を推進した。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	起業相談件数（件）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	22	20	20	20	A
	実績		20			
	分析	計画通り推進できた。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	二宮ブランドの新規認定商品数（件）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	3	3	3	3	-
	実績		0			
	分析	コロナ禍のため、当該年度の二宮ブランドの認定審査会が開催されなかったことにより実績はなかった。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	中小企業融資件数（件）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	11	30	10	10	C
	実績		20			
	分析	コロナ対策として、信用保証料の無料化など支援を充実したが借入実績は一定数に留まった。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業所が打撃を受けたが家賃補助、継続支援金やエールプレミアム商品券発行事業の補助などを実施し支援した。			
	課題	①コロナ禍以前の状況まで回復することは容易でないため、今後も継続的な支援を推進していく必要がある。			
	改善点 (課題番号に対応)	①事業者がどのような支援を望んでいるのかニーズを的確に捉え、その上で次なる支援策を実施していく。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<p>● 中小企業支援については、後継者不足の課題に加え、新型コロナの影響による事業継続支援も重要となっている。商工会等と連携して、起業支援、経営支援を継続して実施するとともに、キャッシュレスなどの非接触決済化など、時代の流れに沿った新たなバックアップ体制を検討する必要がある。</p> <p>● 二宮ブランドは、認定商品だけでなく、ブランドコンセプトそのものの認知度が低いと感じられるため、情報発信を強く推し進める必要がある。また、駅周辺にサテライトショップのような、誰もが分かりやすく、購入しやすい場所を設置する必要がある。これらの観点から情報発信及び販売の拠点として、町観光協会を駅前に移転することを強く勧める。</p>			

施策評価シート（令和2年度 実績）

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる
------	-----------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域農林業の活性化	評価者	都市部長
----	-----------	-----	------

施策内容	食糧の自足だけでなく地域環境の保全の観点からも、農林業に対する取り組みは重要であると認識し、新規就農者の確保や特産物の普及、有害鳥獣対策など、多方面からの支援を実施します。		
------	--	--	--

主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明
	1	農業振興事業	適当	有効だった	計画どおり新規就農者の実績を積み上げることができた。
2	遊休・荒廃農地対策事業	適当	有効だった	農地の所有者に対して、遊休・荒廃農地の解消を促進した。	
3	特産物普及奨励事業（農業再生事業）	適当	有効だった	特産物の拡大しているため、生産量の増大も進めていく。	
4	有害鳥獣対策事業	良好	有効だった	広域防護柵の設置等により、イノシシの捕獲数が過去最大値となった。	

重要業績評価指標（KPI）①	指標名	新規就農者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	2	2	2	2	A
	実績		2			
	分析	計画通り推進できた。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		

重要業績評価指標（KPI）②	指標名	町内オリーブの生産量（トン）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	1.1	1.5	1.8	2.1	B
	実績		0.9			
	分析	生産量の向上を見込んだが、台風の接近、長雨などの影響により、達成することができなかった。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		

重要業績評価指標（KPI）③	指標名	有害鳥獣の捕獲数（頭）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	57	120	100	100	A
	実績		124			
	分析	過去最大規模の捕獲頭数となった。今後の推移に注視したい。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者の確保に努め、計画どおりの実績となった。 遊休・荒廃地の解消を図りつつ、広域防護柵の設置等により、有害鳥獣であるイノシシを過去最大に捕獲することができた。 			
	課題	①オリーブの生産性の向上を図ることが必要である。			
	改善点 <small>（課題番号に対応）</small>	①オリーブの高付加価値化を図ることが急務である。 オリーブオイルの地域団体商標登録を目指し、取り組んでいく。			
	評価	<input type="checkbox"/> 地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> 地方創生に効果があった	<input checked="" type="checkbox"/> 地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> 地方創生に対して効果がなかった		

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<p>●オリーブについては、近隣自治体と連携し認知度アップを図り、湘南オリーブオイルの地域団体商標登録を目指すなど、地域産業活性化や町の魅力向上につながる象徴的な取り組みを推進していることは評価できる。一方で、生産量が確保できないことで、商品数などが限定的になっていることから、遊休荒廃農地の活用も含めて、生産量の増加を図る必要がある。</p> <p>●特産物の活用については、オリーブと他の特産物を融合させるなど、町の特性に併せ柔軟な商品開発に繋げていくことが重要である。</p> <p>●新規就農者の確保について、就農するための様々なハードルがあるため、農業を始めるきっかけを促すなど、町での農業機運を高めるような取り組みも考えられる。</p>			